

方法があると思う。

- (1) 自動車文庫によるもの
- (2) 出張所の社会教育担当者によるもの
- (3) 市町村教委によるもの
- (4) 分館によるもの

これらは、それぞれ単独で行なわれる場合もあるけれども、実際は共同で行なうことが多い。その方がむしろ効果は大きい。たとえば、37年度においては、田村郡を重点地区としてとりあげ、読書グループの増加を図った。その結果は、新しく28の読書グループを誕生させることができたけれども、いうまでもなく、この成果は、出張所ならびに市町村の社会教育担当者の努力に負うところが大きいのである。

昭和37年度における読書グループの増加数

郡 別	読書グループ数	会 員 数
信 夫 達	5	60
伊 達 村	17	372
田 村	28	330
本館貸出文庫	4	56
計	54	818

上記の表は37年度中に増えた読書グループの数だが、もちろんこの数字は、はっきり増えたと確認できる自動車文庫のみの増加数であって、増えたことは予想できるけれども、数字の上で明確にはとらえられないもの、つまり、自動車文庫の巡回の対象になっていない区域、分館で取扱ったもの、巡回文庫等によるものは含まれてい

ない。もしそれらを含まれていない。もしそれらを含めればこの数字は当然大きく変わってくる。

年間54グループの増加は、いかにも少ないような感じを与えるけれども、これは主として次のような理由によるものである。つまり、予算の上で自動車文庫に配分される図書購入費は約50万円である。一冊の単価350円とみると約1,400冊買えることになる。しかしこれでは、一つのグループの貸出冊数は平均30冊だから47グループに貸す分にしか当たらない。もしそれ以上に要求があれば、古い本で我慢してもらうほかはない。いいかえれば、図書の絶対量を増やすという努力がまず必要なのである。

読書会連絡協議会というのが、県内の三つの地区にあって、それぞれ自主的にあるいは、地域の図書館なり公民館と共同で、読書普及のためのいろいろな事業を進めている。そこで、われわれは、地域視聴覚ライブラリーのように、せめて郡単位に読書会連絡協議会を作れないものだろうかと思った。そのために本年度は特に自動車文庫の運行に当っては、読書グループに貸出しを行なうと同時に、一方において、つとめて、地教委、公民館等の職員にお会いして、このことについての意見を求め、結成の方向に努力したけれども、遂に実現に至らなかった。次年度は本年度の反省に立って強く進めていきたい。

利用者への奉仕

1. 自動車文庫

移動図書館巡回 利用状況 (37.1~12)

() 内は昭和36年度

区 分	コース	利用状況				計	百分 比 (%)
		信夫・伊達	安達・田村	岩瀬・西白	耶 麻		
年間巡回々数		7 (8)	5 (6)	4 (6)	3	19 (23)	
貸出数冊		10,844 (8,534)	1,288 (1,215)	1,657 (1,337)	975 (515)	14,764 (11,601)	
利 用 人 員	男	4,875 (3,386)	531 (473)	557 (549)	272 (190)	6,235 (4,598)	53.8 (51.7)
	女	4,472 (3,367)	476 (379)	124 (303)	284 (231)	5,356 (4,280)	46.2 (48.3)
	計	9,347 (6,753)	1,007 (852)	628 (852)	556 (421)	11,591 (8,878)	100.0
利 用 冊 数	総 記	42	1	3	2	48	0.3
	哲 学	302	27	17	31	377	2.2
	史 地	444	48	47	68	607	3.5
	歴 理	409	55	44	31	539	3.1
	社 会	110	35	26	17	188	0.7
	自 然	191	11	25	11	238	1.4
	工 学	214	24	19	20	277	1.6
	産 業	112	13	7	13	145	0.9
	芸 術	37	12	9	10	68	0.4
	語 文	11,843	1,202	1,020	741	14,806	35.9
	計	13,704 (9,567)	1,428 (1,213)	1,217 (1,319)	944 (586)	17,293 (12,685)	100.0